

# 近世民家の集成(11)

近世研究プロジェクトチーム

## はじめに

前回は、2010年3月末までに報告された近世建物271軒分のデータをもとに柱穴の形状、柱間距離、梁間と桁行、面積について検討した。今回は、平面形態、間取り、建物の機能が想定されるについて検討し、集成をひとまず終了としたい。

## 平面形態

建物のほぼ全体が検出され、規模が判明している219軒について、平面形態により長方形を呈するもの（桁行が梁間の1.2倍以上）、正方形を呈するもの（桁行が梁間の1.0倍～1.1倍未満）、正方形に近い形のもの（桁行が梁間の1.1倍～1.2倍未満）、その他（1間×2間以上の張出しを有するもの）の4種類に分類した。

長方形を呈するものは165軒あり、全体の75%を占めている。柱間規模は1間×1～4間、1.5間×3間、2間×2～6間、2.5間×8間、3間×3～7間、4間×5間、4間×7間、5間×6間が認められ、内訳は2間×3間が49軒（30%）、2間×4間が29軒（18%）、1間×2間が16軒（10%）、2間×2間が12軒（7%）、2間×5間が8軒（5%）、3間×5間が7軒（4%）となっている。桁行の長さと梁間の長さを見ると、桁行が梁間の2倍以下のものが125軒と75%強を占めており、3倍以上の建物は5軒（3%）しか確認されていない。建物の機能は、主屋（母屋）と報告されているものが59軒ある。機能の記載がない建物についても、面積が20m<sup>2</sup>以上を測るものの多くは主屋（母屋）の可能性が考えられ、主屋（母屋）は、長方形の呈するものが主体を占めていたと思われる。主屋（母屋）以外の建物は、ナヤ（納屋）、副屋、付属建物、作業場小屋的な施設、倉庫、廐、蔵などと報告されている。これらの建物は、宮ヶ瀬遺跡群馬場遺跡（No.7）の2軒（K2号掘立柱建物址・資料No.203、K8号掘立柱建物址・資料No.206）を除くと20m<sup>2</sup>以下の大きさのものが多いが、主屋（母屋）と規模の変わらないものも認められる。長方形を呈する建物の機能は、規模だけではなく、周囲の建物の配置等を考慮して決定する必要がある。

正方形を呈するものは28軒あり、全体の13%を占める。柱間規模は0.5間×1間、1間×1～2間、2間×1～3間、3間×2～4間、4間×4間、5間×6間が認められ、内訳は2間×2間が10軒（36%）、3間×3間が4軒（14%）、1間×2間が3軒（11%）、3間×3.5間が2軒（7%）、3間×4間が2軒（7%）となっている。梁間と桁行の柱間規模が同じ建物が16軒（57%）あるが、残りは梁間と桁行の1間の寸法が異なるものの正方形を呈する建物である。建物の機能は、13軒に記載されており、主屋（母屋）、付属建物、廐（ウマヤ）、観音堂、堂舎、庫裏などと報告されている。このうち、主屋（母屋）と報告されているのは池子遺跡群No.1-C地点の3軒（K-7号建物址・資料No.29、K-11号掘立柱建物址・資料No.33、K-12号掘立柱建物址・資料No.34）のみである。平面形態が正方形を呈する建物は、主屋（母屋）は少なく、廐を含む付属建物や寺社関連の建物の可能性が高い建物といえそうである。

正方形に近い形を呈するものは19軒あり、全体の9%を占める。柱間規模は1間×1～3間、2間×2～3間、3間×3間、4間×4.5間が認められ、内訳は2間×2間が7軒（37%）、2間×3間が6軒（32%）、

1間×1間が2軒（10%）となっている。梁間と桁行の柱間規模が同じでも正方形にならないものが半数以上を占めており、正方形を呈する建物の事例とあわせると梁間と桁行の1間の寸法が異なる建物が比較的多く存在していたことがわかる。建物の機能は、主屋（母屋）と報告されている例はなく、作業場小屋的な施設、副屋、付属建物、廁と推定されている。

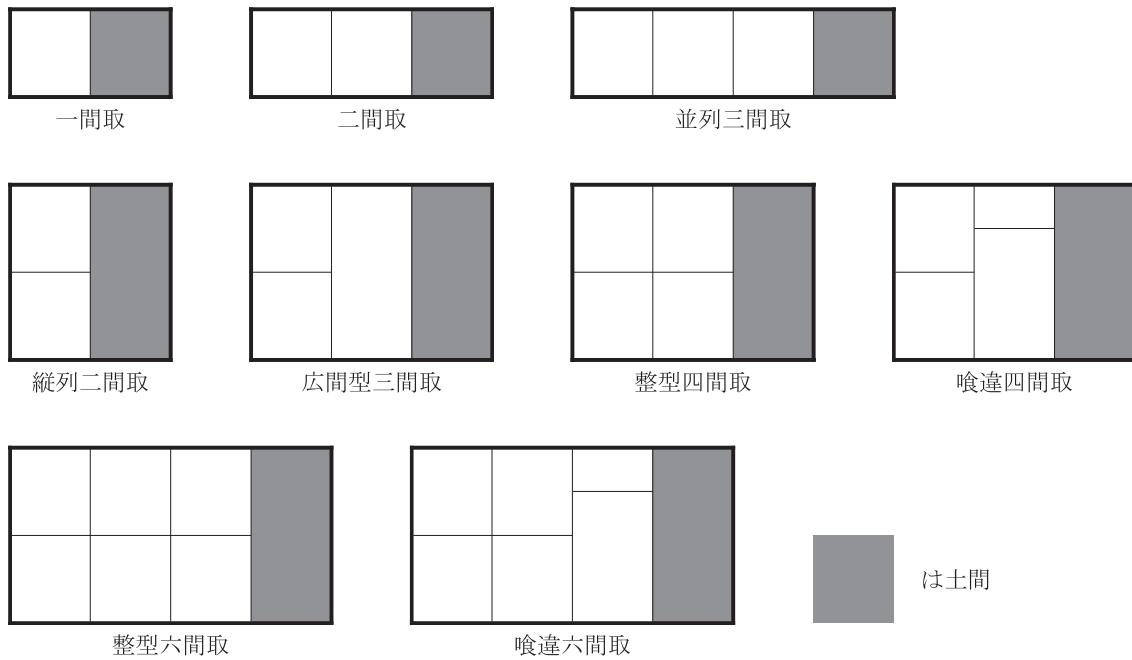
その他とした1間×2間以上の張出しを有するものは7軒（資料No.21・78・96・187・198・247・252）あり、全体の3%を占める。張出しの位置は、東側1軒、西側2軒、北側2軒、南側1軒と、すべての方角に設けられている。張出しを除いた部分の平面形態は、長方形が5軒、正方形が1軒で、長方形を呈するものが主体を占める。規模は建物の機能は、主屋（母屋）と報告されている例が3例、納屋等の付属施設と報告されている例が1例ある。張出しを有する建物は、建物の規模（面積）が比較的大きく、主屋（母屋）と考えられるものが多いと思われる。

平面形態と構築時期について見ると、長方形を呈する建物は、近世を通じて認められるが、18世紀前半以前に位置づけられているものが75軒中44軒ある。正方形または正方形に近い形の建物は、11軒中8軒が18世紀前半以前、3軒が18世紀後半以降に位置づけられている。その他（1間×2間以上の張出しを有する建物）は、3軒中2軒が18世紀前半以前、1軒が18世紀代に位置づけられている。18世紀前半までに位置づけられている建物が多いのは、発見されている建物のほとんどが掘立柱建物であることと関係していると思われ、それ以降に数が減っているのは礎石建物が増えたためと考えられる。

## 間取り

### ①民家

近世民家の主屋（母屋）は通常、土間と床上部分で構成されている。「神奈川県近世民家調査野帳集」や「藤沢の民家」によれば、県内の民家は、床上部分の部屋の数や位置によって、部屋が1室の一間取、横一列に2室配置されている二間取、上下に1室ずつ配置されている縦二間取、下手の部屋が1室の広間で上手



第1図 間取りの分類

の部屋が表と裏の2室に分かれる広間型三間取、下手の表裏2室と上手の表裏2室の間仕切りが一致し「田の字型」を呈している整型四間取、桁行方向の間仕切りが縦に喰い違った4室からなる喰違四間取、間仕切りが一致している6室からなる整型六間取、桁行方向の間仕切りが縦に喰い違った6室からなる喰違六間取などに分類されている（第1図）。

県下の近世民家の主屋（母屋）の間取りは、「神奈川県近世民家調査野帳集」によれば、広間型三間取が一般的な間取りであり、三浦郡、津久井郡において異なる間取りが認められるとされている。また、間取りの変遷について、整形四間取は18世紀初期頃から見られ19世紀前期頃に一般化したこと、喰違四間取は整型四間取と同時期かやや早く出現したことが記載されている。

今回集成した建物の中で間取りについての記述が認められたのは宮久保遺跡のみで、SB04（資料No.70）は広間型三間取、SB06（資料No.72）は整型四間取、SB08（資料No.74）は喰違四間取で、構築時期はそれぞれ17世紀後半、18世紀後半、19世紀前半と報告されており、間取りが広間型三間取から整型四間取、喰違四間取へ変化したことが確認されている。平面図のみで間取りを復元するのには限界があると思われるが、宮久保遺跡以外の遺跡の建物についても、第1図をもとに間取りを検討してみたい。なお、今回の検討にあたり、一部については報告と異なる間取りを想定したものがある。

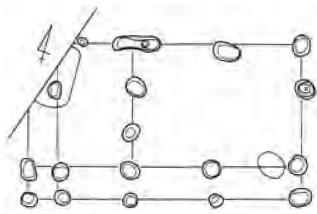
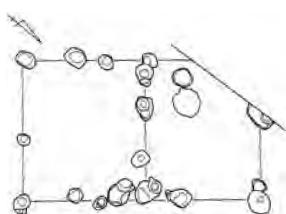
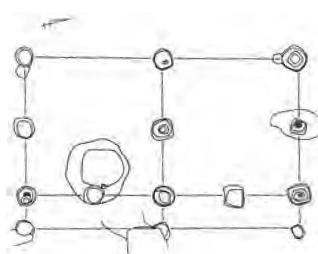
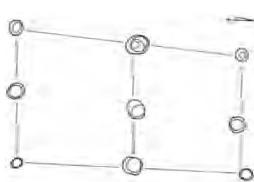
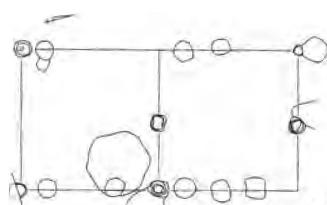
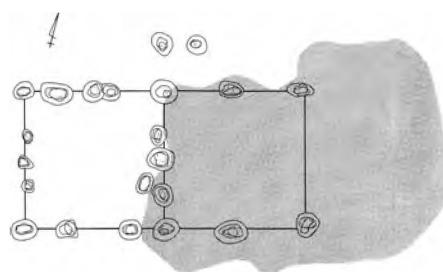
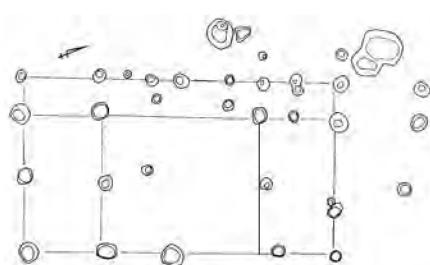
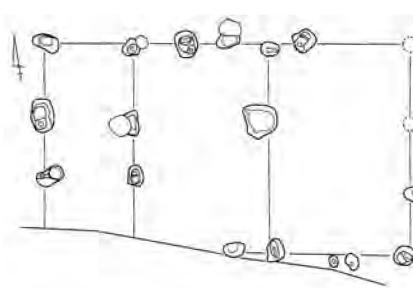
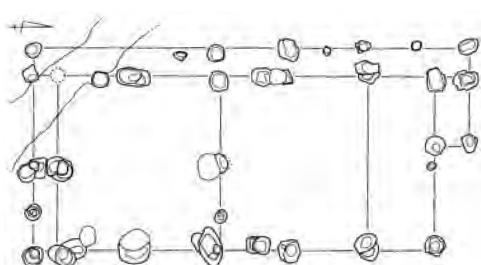
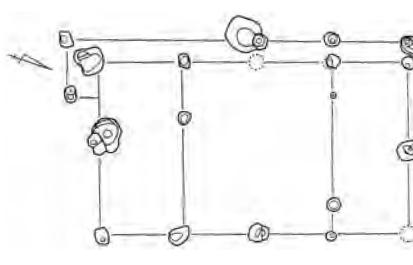
一間取は、中村遺跡の1号掘立柱建物址・3号掘立柱建物址（資料No.64・No.65）、上村遺跡のK5号掘立柱建物址（資料No.151）、北原（No.9）遺跡のK7号掘立柱建物址・K8号掘立柱建物址（資料171・No.172）、津久井城跡馬込地区のK5号掘立柱建物址（資料No.251）、中依知遺跡群のB1号（礎石）建物址（資料No.257）が該当すると思われる。柱間規模は1.5～2間×2～4間である（第2図）。

二間取は、熊ヶ谷遺跡の掘立柱建物址（資料No.3）、黒川地区遺跡群宮添遺跡の1号建物址（資料No.19）、宮久保遺跡のSB05・SB07・SB11（資料No.71・No.73・No.77）、上村遺跡のK17号掘立柱建物址（資料No.163）、宮ヶ瀬遺跡群北原（No.10・11北）遺跡のK1号掘立柱建物址（資料No.183）、はじめ沢下遺跡のK3号掘立柱建物址（資料No.243）、津久井城跡馬込地区のK3号掘立柱建物址（資料No.248）、原宿町遺跡の1次23号掘立柱建物址（資料No.266）が該当すると思われる。柱間規模は2～3間×3～6間である。また、同様の規模を有する宮ヶ瀬遺跡群南（No.2）遺跡のK1号掘立柱建物址（資料No.186）、宮ヶ瀬遺跡群馬場（No.7）遺跡のK7号掘立柱建物址（資料No.205）も内柱が認められないものの二間取の可能性が考えられる。この他に、間仕切が2箇所あり三間取の建物と思われる建物が愛名宮地遺跡（第7号掘立柱建物址、資料No.97）で検出されている（第2～4図）。

広間型三間取は、宮久保遺跡のSB04（資料No.70）、はじめ沢下遺跡のK2号掘立柱建物址（資料No.242）が該当すると思われ、上粕屋・川上遺跡（No.6）の9号掘立柱建物址（資料No.111）、原宿町遺跡の1次20号掘立柱建物址（資料No.264）もその可能性が考えられる。柱間規模は資料No.70が2間×5間、資料No.242が3間×5間、資料No.264が2間×4間である。広間型三間取は、県内の一般的な間取りとされているものの、検出例はわずかであった（第4図）。

整型四間取は、白幡浦島丘遺跡の2号ピット群内（資料No.18）、宮久保遺跡のSB06（資料No.72）、真田・北金目遺跡群のSB6003（資料No.232）が該当すると思われる。柱間規模は3間×7間、3間×5.5間、2間×3間である（第4・5図）。

喰違四間取は、宮久保遺跡のSB08（資料No.74）が該当すると思われる。柱間規模は3間×6間で、北側に張出しを有する（第5図）。

64. 中村遺跡  
1号掘立柱建物址65. 中村遺跡  
3号掘立柱建物址171. 宮ヶ瀬遺跡群北原(No. 9)遺跡  
K 7号掘立柱建物址151. 上村遺跡  
K 5号掘立柱建物址172. 宮ヶ瀬遺跡群北原(No. 9)遺跡  
K 8号掘立柱建物址257. 中依知遺跡群  
B1号(礎石)建物址3. 熊ヶ谷遺跡  
掘立柱建物址71. 宮久保遺跡  
SB0573. 宮久保遺跡  
SB0777. 宮久保遺跡  
SB11

0 [1/200] 5m

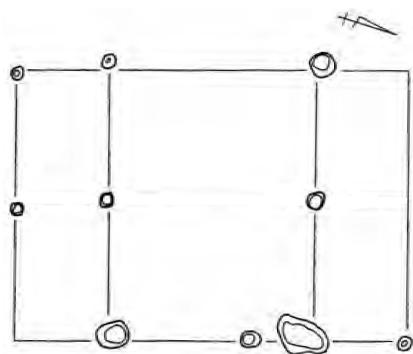
第2図 間取り (1)

整型六間取や喰違六間取の大型の建物は、今のところ、発掘調査では確認されていない。

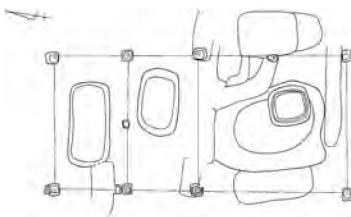
分類に当てはまらない間取りに池子遺跡群No. 5地のK-19建物址（資料No.56）と代官守屋左太夫陣屋跡の5号礎石建物址（資料No.130）がある。ともに柱間規模2間×3間の建物であるが、内部に2本の柱を有しており、部屋が3部屋設けられていた可能性が考えられる（第5図）。

近世民家の集成(11)

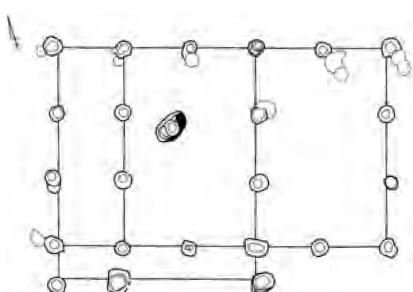
163. 上村遺跡  
K17号掘立柱建物址



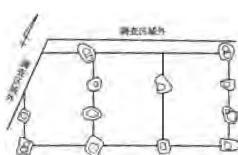
183. 宮ヶ瀬遺跡群北原(No.10・11北)遺跡  
K 1 号掘立柱建物址



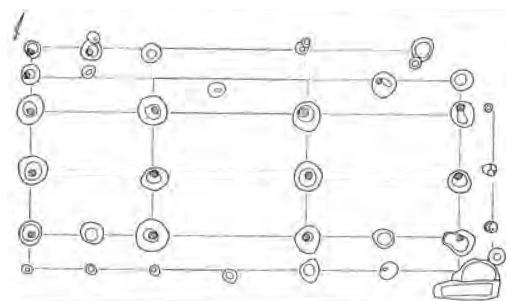
243. はじめ沢下遺跡  
K 3 号掘立柱建物址



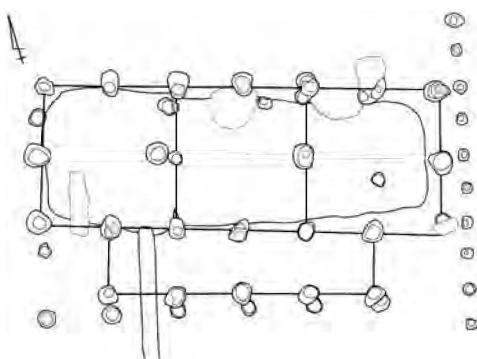
266. 原宿町遺跡  
1 次23号掘立柱建物址



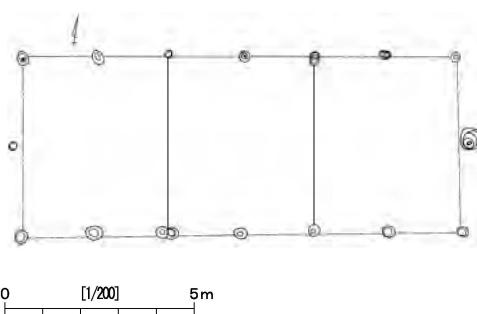
19. 黒川地区遺跡群宮添遺跡  
1号建物址



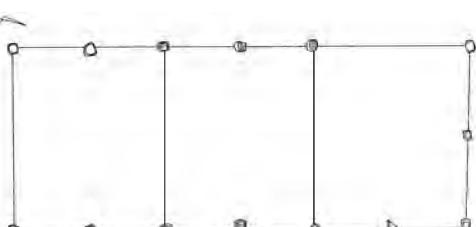
248. 津久井城跡馬込地区  
K 3 号掘立柱建物址a



186. 宮ヶ瀬遺跡群南(No.2)遺跡  
K 1 号掘立柱建物址

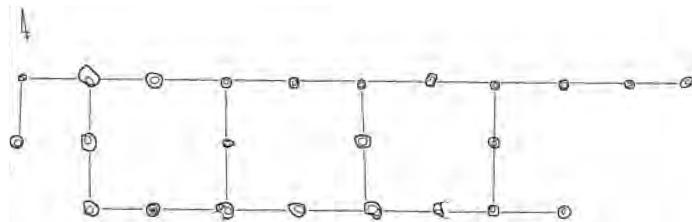


205. 宮ヶ瀬遺跡群馬場(No.7)遺跡  
K 7 号掘立柱建物址

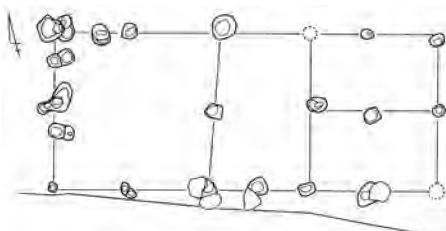


第3図 間取り (2)

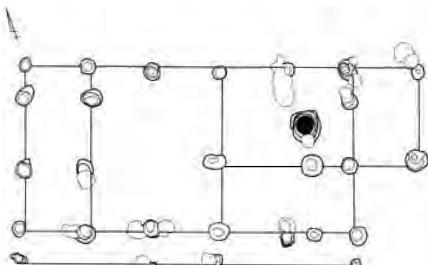
97. 愛名宮地遺跡  
第7号掘立柱建物址



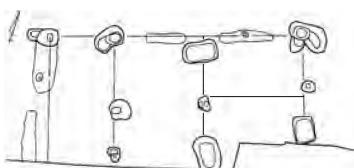
70. 宮久保遺跡  
SB04



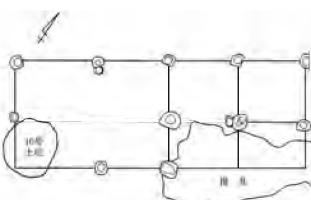
242. はじめ沢下遺跡  
K2号掘立柱建物址



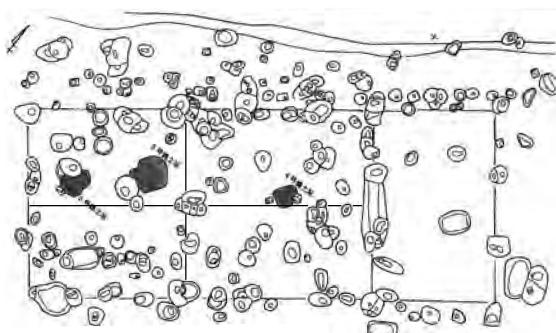
111. 上粕屋・川上遺跡(No.6)  
9号掘立柱建物址



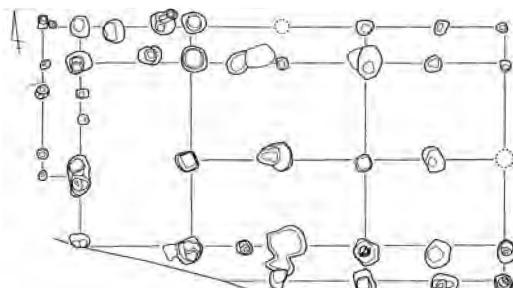
264. 原宿町遺跡  
1次20号掘立柱建物址



18. 白幡浦島丘遺跡  
2号ピット群内



72. 宮久保遺跡  
SB06

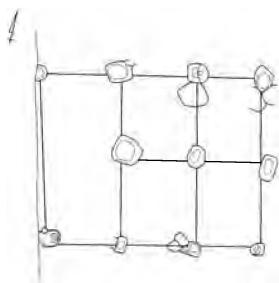


0 [1/200] 5m

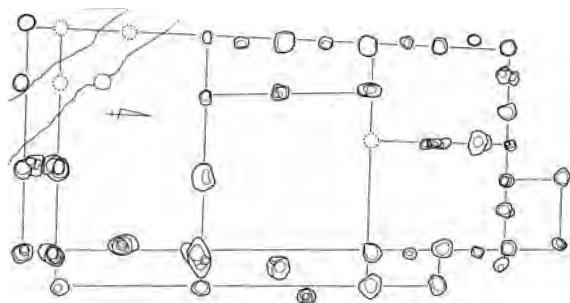
第4図 間取り (3)

近世民家の集成(11)

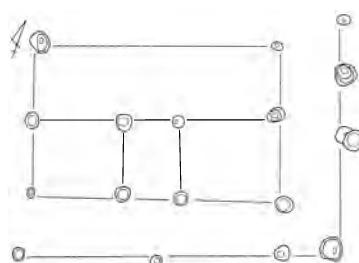
232. 真田・北金目遺跡群  
SB6003



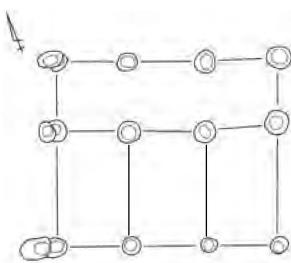
74. 宮久保遺跡  
SB08



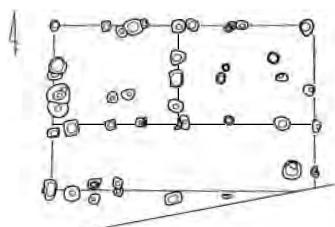
56. 池子遺跡群No.5 地点  
K-19号建物址



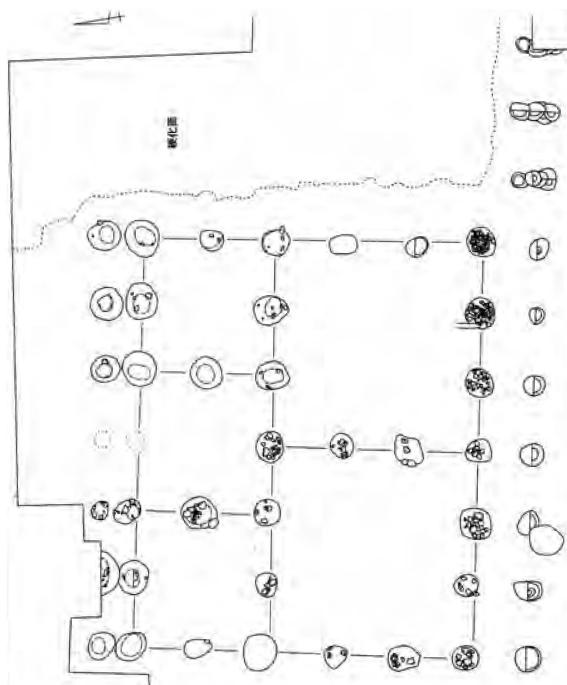
130. 代官守屋左太夫陣屋跡  
5号掘立柱建物址



60. 御組長屋遺跡第II地点  
1号掘立柱建物址



131. 代官守屋左太夫陣屋跡  
1号礎石建物址



第5図 間取り (4)

## ②民家以外の建物

弓矢・鉄砲方足軽の居住棟とされている御屋敷長屋遺跡第II地点の1号掘立柱建物址（資料No.60）は、縦二間取の可能性が考えられる。柱間規模は3間×4間である。代官陣屋または屋敷と考えられている代官守屋左太夫陣屋跡の1号礎石建物跡（資料No.131）は、表に3間×3間の部屋が2部屋、裏に2間×2間の部屋が3部屋設けられている（第5図）。

### 建物の機能が想定される建物について

#### ①総柱建物（第6・7図）

総柱の建物は14軒認められる。機能については、はじめ沢下遺跡のK1号掘立柱建物址a（資料No.240）、真田・北金目遺跡群の41B区SB001（資料No.253）の2軒が主屋（母屋）、長津田遺跡群宮之前南遺跡1号段切掘立柱建物址K2（資料No.7）、黒川地区遺跡群宮添遺跡の2号建物址（資料No.20）、宮久保遺跡SB20（資料No.85）、真田・北金目遺跡群のSB6002（資料No.231）の4軒が倉庫・納屋・付属建物、受地だいやま遺跡第25号掘立柱建物址（資料No.4）、地蔵山熊野神社遺跡K-20号建物址（資料No.59）、宮ヶ瀬遺跡群北原（No.9）遺跡の1号礎石建物址（資料No.181）の3軒が倉庫施設または堂舎・神社・観音堂と想定されている。柱間規模は、2間×2～4間、2間×6間、3間×4～6間、4間×4間、5間×6間で、内訳は2間×2間が4軒、2間×3間、2間×4間、2間×6間が各2軒、他は1軒ずつである。真田・北金目遺跡群では、主屋（母屋）と想定されている41B区SB001と類似する建物があと2軒（SB0001・0002、資料No.233・234）確認されており、これらも主屋（母屋）の可能性がある。また、池子遺跡群No.1-C地点のK-13号建物址（資料No.35）は、主屋（母屋）と想定されているはじめ沢下遺跡のK1号掘立柱建物址aよりも桁行が1間短いが面積は広く、これも主屋（母屋）の可能性が考えられる。倉庫・納屋・付属建物と想定されている建物は、柱間規模が2間×2間または2間×3間で、同規模の原宿町遺跡の4次1号掘立柱建物址（資料No.270）や面積が類似する愛名宮地遺跡第3号掘立柱建物址（資料No.93）も同様の機能を有する建物であった可能性が考えられる。

#### ②竪穴状の掘り込みを有する建物（第8図）

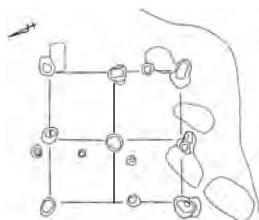
竪穴状の掘り込みを有する建物は11軒認められる。機能については、半原向原K1号掘立柱建物址・K2号掘立柱建物址（資料No.144・資料No.145）、宮ヶ瀬遺跡群馬場（No.7）遺跡のK27号掘立柱建物址・K28号掘立柱建物址・K37号掘立柱建物址（資料No.217・資料No.218・資料No.224）は厩（ウマヤ）、はじめ沢下遺跡のK1号掘立柱建物址a・K1号掘立柱建物址b（資料No.240・241）、津久井城跡馬込地区のK4号掘立柱建物址・K5号掘立柱建物址（資料No.250・資料No.251）の4軒は主屋（母屋）と想定されている。柱間規模は、厩（ウマヤ）と想定されている建物が2間×2～3間、3間×3.5間、主屋（母屋）と想定されている建物が2間×3間、3間×4間、3間×6間を測る。他の2例は、宮ヶ瀬遺跡群北原（No.9）遺跡のK10号掘立柱建物址・K12号掘立柱建物址（資料No.174・資料No.176）で、建物の平面形態はともに正方形を呈している。掘り込みは資料No.174が南西隅、資料No.176が南側に設けられているが、機能は不明である。竪穴状の掘り込みは、長径3.2～4.5m、短径1.8～3.2mの規模を有し、平面形態は長方形を呈するものが主体を占め、底部が硬化しているものも認められる。竪穴状の掘り込みを有する建物は、単独のものは厩（ウマヤ）として機能していたものが多いと思われるが、主屋（母屋）に付属するものについては作業場など別の利用方法も考える必要がある。

近世民家の集成(11)

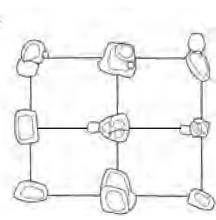
4. 受地だいやま遺跡  
第25号掘立柱建物址



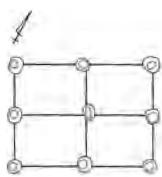
7. 長津田遺跡群宮之前南遺跡  
1号段切 堀立柱建物K2



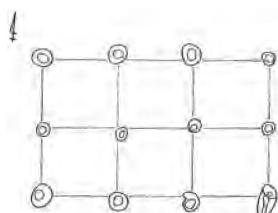
231. 真田・北金目遺跡群  
SB6002



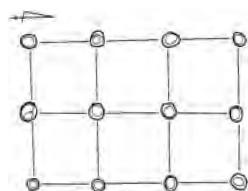
270. 原宿町遺跡  
4次1号掘立柱建物址



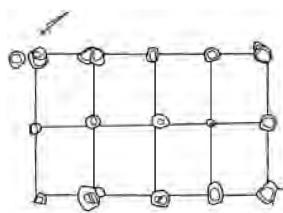
20. 黒川地区遺跡群宮添遺跡  
2号建物址



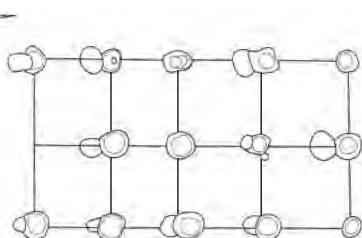
85. 宮久保遺跡  
SB20



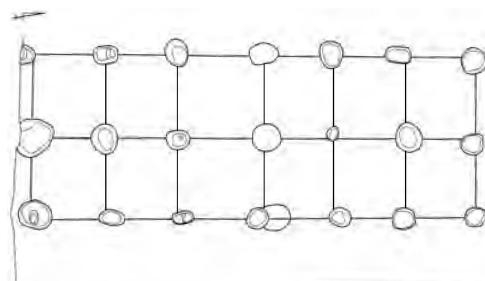
253. 真田・北金目遺跡群  
41B区SB001



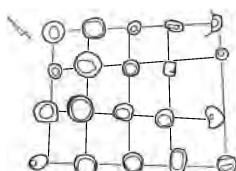
234. 真田・北金目遺跡群  
SB0002



233. 真田・北金目遺跡群  
SB0001



93. 愛名宮地遺跡  
第3号掘立柱建物址

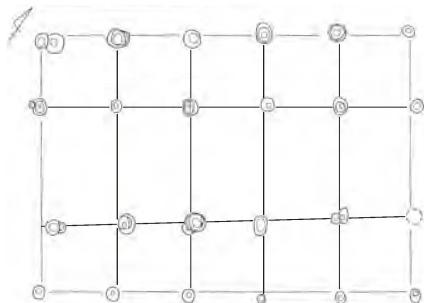


0 [1/200] 5m

第6図 総柱建物(1)

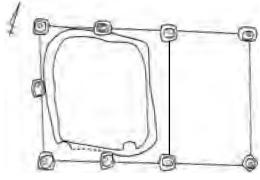
## ③（土）蔵（第9図）

（土）蔵として報告されているのは、根小屋根本遺跡の1号土蔵跡（資料No.118）、宮ヶ瀬遺跡群馬場（No.7）遺跡のK1号蔵址（資料No.229）、原宿町遺跡4次1号土蔵跡（資料No.271）の3例である。規模は酒造に関連する蔵と考えられている資料No.118が $7.7 \times 16.5\text{m}$ 、資料No.229と資料No.271は $3.6 \times 5.3\text{m}$ 、 $3.7 \times 5.6\text{m}$ を測る。基礎は布基礎で、地盤沈下を防ぐために礫が入れられたり、突き固められたりしている。構築時期は19世紀中～19世紀後半以降とされている。

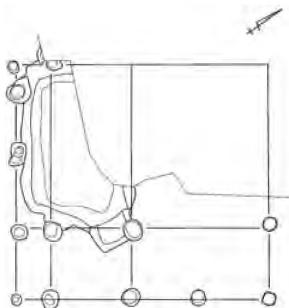
35. 池子遺跡群No.1-C地点  
K-13号建物址

近世民家の集成(11)

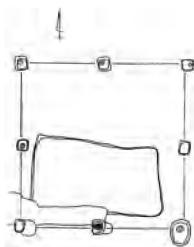
217. 宮ヶ瀬遺跡群馬場(No.7)遺跡  
K27号掘立柱建物址



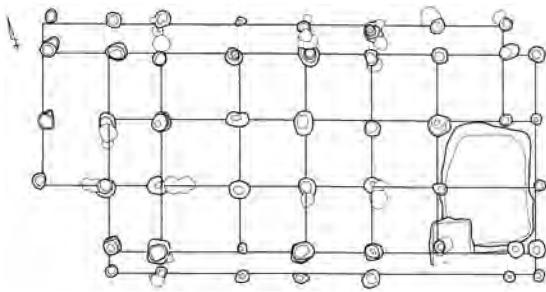
144. 半原向原遺跡  
K 1 号掘立柱建物址



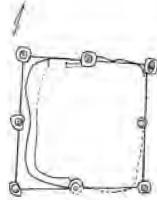
176. 宮ヶ瀬遺跡群北原(No.9)遺跡  
K12号掘立柱建物址



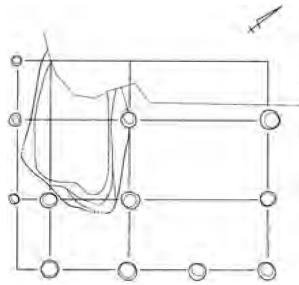
240. はじめ沢下遺跡  
K 1 号掘立柱建物址a



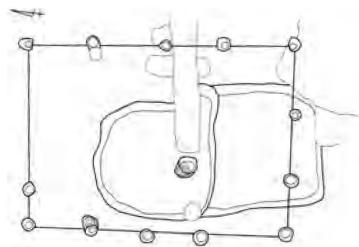
218. 宮ヶ瀬遺跡群馬場(No.7)遺跡  
K28号掘立柱建物址



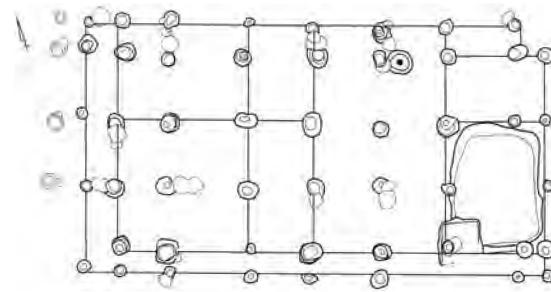
145. 半原向原遺跡  
K 2 号掘立柱建物址



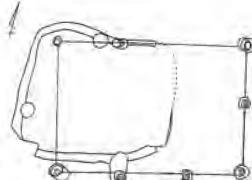
250. 津久井城跡馬込地区  
K 4 号掘立柱建物址



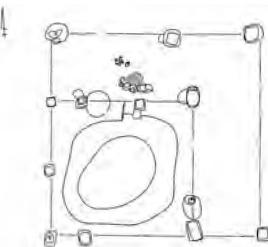
241. はじめ沢下遺跡  
K 1 号掘立柱建物址b



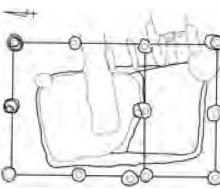
224. 宮ヶ瀬遺跡群馬場(No.7)遺跡  
K37号掘立柱建物址



174. 宮ヶ瀬遺跡群北原(No.9)遺跡  
K10号掘立柱建物址



251. 津久井城跡馬込地区  
K 5 号掘立柱建物址

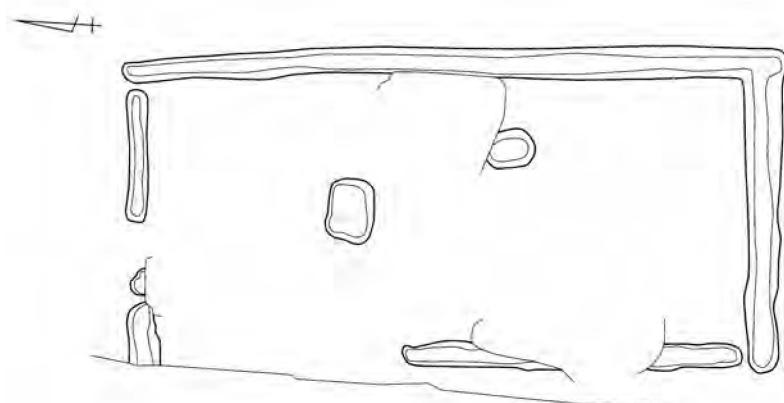


0 [1/200] 5m

第8図 壁穴状の掘り込みを有する建物

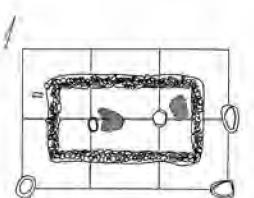
118. 根小屋根本遺跡

1号土蔵跡



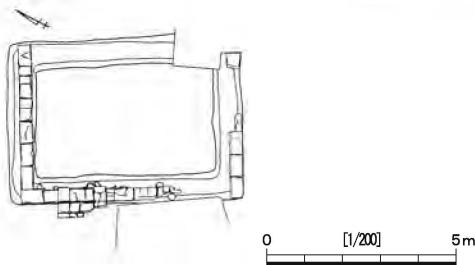
229. 宮ヶ瀬遺跡群馬場（No.7）遺跡

K1号蔵址



271. 原宿町遺跡

4次1号土蔵跡



第9図 (土) 蔵

### まとめ

県内の近世民家は、広間型三間取が一般的な間取りであるとされているが、今回の集成では、数例しか確認することができず、一間取や二間取りの建物のほうが多く認められた。これは、報告されている建物の多くが2～3間×2～6間のそれほど規模の大きくない掘立柱建物であり、礎石建物の調査事例が少ないことや、比較的規模の大きな建物についても内柱が存在しないものについては広間型三間取や整型四間取を想定しなかったことなどが影響していると思われる。しかし、文献資料や現存の建物調査からは知りえないような規模の小さい民家が相当数存在していたことも間違いない、近世には様々な間取りの民家が存在していたと思われる。今回の屋敷地と建物の配置、地域による間取りについてはほとんどふれることができなかった。今後の検討課題としたい。

(木村吉行)

### 参考文献

- 神奈川県教育委員会 1974年 『神奈川県の民家一 足柄地方』
- 神奈川県教育委員会 1989年 『神奈川県近世民家調査野帳集（上巻）（下巻）』
- 藤沢市教育委員会 1993年 『藤沢の民家』